

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 特別支援学校情報機器更改費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 環境整備係 電話番号：058-272-1111 (内 3585)

E-mail: c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 30,819 千円 (前年度予算額：13,662 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|----------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財産 収入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 13,662 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13,662 |
| 要求額 | 30,819 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30,819 |
| 決定額 | 27,319 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27,319 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・文部科学省が進める「GIGAスクール構想の実現」に沿って、児童生徒1人1台端末の整備を継続し情報活用能力を育成し、創造性を育む教育を実現する。
- ・利用頻度が増加したためタブレット端末の修繕の台数も増加。使用頻度の高まりから破損したとしても代替機が必要である。

(2) 事業内容

- 1人1台タブレット端末の維持・更新
 - ・タブレット端末の更新
 - ・故障時の修繕及び予備端末配備
 - ・生徒増に対応する新規購入
- PC端末の更新
 - ・授業に必要なPCの更新

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県 10/10 (県立特別支援学校の教育備品の整備のため)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|--------|----------------|
| 備品購入費 | 12,303 | パソコン等機器の購入 |
| 消耗品費 | 17,071 | タブレットや付属消耗品の購入 |
| 修繕料 | 1,445 | タブレットの修繕料 |
| 合計 | 30,819 | |

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

特別支援学校の児童生徒一人一人にタブレット端末等を整備し、GIGA スクール構想に示されている学習環境を整備、保持する。

また、タブレット端末の故障時や、児童生徒数の増加した場合も児童生徒1人に1台ずつ端末が整備され、途切れることなくコンピュータ等を積極的かつ適切に活用できるよう学習活動を充実する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 | 指標の推移 | | 現在値 (前々年度末時点) | 目標 | 達成率 |
|--------------------------|-------|-------|---|------------------|------|-------|
| タブレット端末整備率 (ノートPCは除く) | 0% | - | - | 19.3% (R1) | 100% | 19.3% |

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

児童生徒一人に一台となるようにタブレットを新規に整備した。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

児童生徒が端末を使用する順番を待たずに学習で使えるようになった。また、タブレット端末に導入した授業支援ソフトを活用し、授業の中でより考えをまとめる機会や興味を持って授業に取り組む時間が増えた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い | |
| (評価) ○ | 国の政策として、G I G Aスクール構想が進められ、特別支援学校に通う児童生徒が、自立や社会参加に向けてタブレットを学習の道具として利活用するために、一人一台端末の学習環境を保持していく必要がある。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) ○ | 各特別支援学校において児童生徒数に応じたI C T機器を整備しており、R2年度においては、1人1台端末の環境が整っている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある | |
| (評価) ○ | 整備をする場合には、既設機器や学習ソフト等の活用状況等を踏まえて機器等を選定している。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 整備したタブレットやパソコン等機器の経過年数にあわせて更新を図っていく必要があり、児童生徒の人数に対応したタブレット端末の導入と管理を行う。 |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 特別支援学校の児童生徒の情報化教育推進のため、引き続きI C T機器の整備を計画的に整備する。 |
|--|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | 【○○課】 |
| 組み合わせて実施する理由や期待する効果 など | |

